

環境先進国

ドイツから学ぶ

21

吉田 浩巳



ドイツには、都市中での幼稚園ではなく、大自然の森の中で子どもたちを育てる「森の幼稚園」があります。2回にわたって森の幼稚園を紹介します。森の幼稚園は、デンマークで始まりました。ドイツ国内では現在、約400あるといわれています。まさに、森の中に小さな建物があり、そこが日本であれば教室ですが、森の幼稚園ではこの教室で授業をしているわけではありません。

郡にある森の幼稚園「ボイムリンゲ」を紹介したいと思います。市街地から10分ほど車を走らせると山の中に入り、林道をしばらく走ると目の前にはログハウス風の建物が目に入ってきます。これがボイムリンゲ森の幼稚園です。この幼稚園は、マインツ・ピンゲンに住む親たちの強い要望により2004年に設立されました。多くの森の幼稚園は、親の希望により設置されるため、

森の幼稚園 (上)

日常的に触れる大自然

きます。また、カーシェアリングで複数の子どもを一緒に連れてくる親もいます。15分ほどで25人の子どもたちが集まりました。日本のような年長や年少のクラスの違いはなく、3歳から6歳までの子どもたちが一緒に一つのグループとして団体行動をします。まず、みんな一緒に屋外でいさつをして、そのまま持ってきたカバンを建物の外壁のフックにかけて、輪になって歌を歌ったり、いす取りゲームをしたりします。もちろん、ゲームで使うのは一般的なパイプいすで

森の幼稚園のコンセプトは、一般的には、体力をつけること、さらには社会性を身につけることとで、屋外での授業が基本です。私が訪問したラインラントフ

親が自分たち自身で教師や保育士を見つけ、自分たちで申請書類を作成し、行政に申請します。子ども20人に2人の先生が付

アルツ州のマインツ・ピンゲン

き、通常の開園時間は朝の9時から午後零時30分までで、延長

する場合は午後1時30分まで森の中で過ごします。

ボイムリン

ゲ森の幼稚園のスタッフは、現在4名で、その内、保育士は2人います。モニカムンチ園長とあいさつを交わし、少し待っている

は、木が擦り傷を作ったり、服が汚れて帰ることなども想像できない現状ではないでしょうか。「子どもたちは、日常的に自然と触れることにより、身近なものとして、また、大切にしていかなければならないものとして捉えることができる」と園長先生は話してくれました。

(社団法人まちづくり国際交流センター理事長)

毎月第2、4、5水曜日掲

載



子どもたちみんなの投票によって遊び場所を選んだドイツ・ラインラントフアルツ州のマインツ・ピンゲン郡にある森の幼稚園「ボイムリンゲ」